

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和7年2月20日発行

No.153



(大高取どんど焼き)

毎年1月5日に行われるどんど焼き。青空の下、勢い良く白煙が上がりました。
しめ縄や縁起物を燃やしたその姿は写真でもご利益がありそうです。

小笠原 美雪

第 19 回新春木曽谷狼煙あげ

南木曽町教育委員会 牧 野 翼

大桑村観光協会 事務局 下 島 悠

令和7年1月4日、木曽谷の新春恒例行事である「狼煙あげ」に参加しました。私は、文化財担当になってから今回で6回目の参加となりました。

例年三留野の愛宕山に登り狼煙をあげていましたが、今年からは天白蘇南高校上の高台に場所を変更しました。というのも、毎年山頂付近の木から枝を切り使用していましたが、近年青葉がついた枝に手が届かなくなり集めることが困難であることと、青葉を下から持って登ることも厳しいということからです。

当日は役場の観光係職員と共に午前10時30分に点火し狼煙を上げ始めました。昨年は小雨が降っていましたが、今年は晴天で狼煙も綺麗にまっすぐ上がり、妻籠方面の狼煙もしっかりと確認できました。こちらの狼煙も確認してもらえたら嬉しいと思いますながら作業を行いました。

各場所で大変なことがあるかと思いますが、このような木曽地区の行事が続いていくことを願います。

令和7年1月4日、木曽谷新春狼煙あげに参加しました。恥ずかしながら私はなぜ狼煙に「狼」が入っているのか知りませんでした。昔は狼の糞を燃やして煙をあげていたことから狼の字が入っているそうです。そんなことを話しているうちに点火時刻が近づいてきました。カウントダウンが始まりゼロのかけ声とともに一斉に杉を投げ込むと、たちまち白い煙があがり弓矢地区の平和公園から見事な狼煙があがりました。また晴天も相まって対岸の殿地区の狼煙もはっきりと確認することができました。和村地区ではドラム缶の上に煙突を設置する方法で狼煙あげを行っているのですが、螺旋状に煙があがっていくためこちらは大変見応えがありました。

今年は例年より参加者が少なかったですが、地域行事として交流の場としての狼煙あげが続いていることに感謝します。



〈蘇南高校上〉



〈榑野〉



〈妻籠城址〉



〈大桑村弓矢地区〉



〈木曽町旗竿八幡宮〉



〈馬籠峠〉



〈塩尻市奈良井〉



〈木祖村〉

先進地視察を終えて

妻籠宿案内人の会会長 松瀬 康子

12月6日小雨降る寒い日、案内人10名参加にて苗木城跡そして苗木遠山史料館への先進地視察、苗木城跡案内ボランティアの方々との交流会を終え、中津川市中山道歴史資料館『古代坂本郷の大屋根と大動脈』と謳われた企画展に向かい、古代から自然と向き合いながら発展してきた地域の様子などの展示資料を見学させて頂いて今年の学習会は終わりました。

近年の苗木城跡は随分と整備され、山城の原型が復元され見事にその様子を確認することができます。30年ほど前より『友の会』という有志の方々によって苗木遠山の歴史研究がなされ、今日ある苗木遠山史料館・苗木城跡の整備がなされてきたようです。素晴らしい地域おこしであったと思うとともに遠山氏の功績を知ることができ、地域の方々にとっても大変魅力的なことだったと思います。

その流れで8年前より中津川市苗木城跡案内ボランティアの活動が始まり有意義な社会活動に繋がってきているのでしょう、地元の方々のボランティア精神に敬服いたしました。

案内人の活動を通して地域の自治について考えさせられることがあります、今回の視察は、そうした地域の方の思いが地域の文化的発展に大きく関わりそして個人の喜びに繋がる、こんな理想がどこまで叶っているのかと私自身の活動を振り返ってみる時期が来ているのではと感じた学習会となりました。



〈苗木城跡〉



〈交流会〉



〈付知川のせせらぎを聞きながら昼食〉



〈天守にて案内人中尾さんの説明を受ける〉



【前理事長：小林俊彦氏逝去】

集落保存の第一人者として、妻籠だけでなく全国の保存運動を推進してこられた小林俊彦氏が、昨年11月9日急逝されました。妻籠を愛する会では、2月1日（土）妻籠冬期大学講座を「小林俊彦氏を偲ぶ会」として開催しました。参加者それぞれが保存の原点を改めて認識し、保存活動を進めていく決意をあらたにしました。

偲ぶ会の内容及び小林俊彦氏の功績については、後日広報「妻籠宿」とは別に追悼号を発行する予定です。今後も（公財）妻籠を愛する会の活動に対し、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第57回文化文政風俗絵巻之行列 晴天の下、開催！

木曽地域振興局商工観光課長 千村直成

平成19年、妻籠冬期大学で小林俊彦さんの講演を聞いたときの衝撃を忘れません。

「売らない、貸さない、こわさない」の三原則とともに、小林さんが強調していたのは妻籠座右の銘「初心忘るべからず」でした。賑やかな妻籠しか見たことのなかった私は、二日間にわたる講演を通して妻籠の歩みを知り、天地がひっくり返るような思いでした。

栄えある行列に加えていただいたのはその年の秋でした。以降、駕籠かき役で計4回。家族で参加もさせていただきましたが、ここ数年は脚を骨折したこともあり参加できませんでした。

令和6年になって杖無しで歩けるようになり、ご招待に際し、合庁内に呼びかけ、大勢参加させていただきました。久々に小林さんのお顔を見られるのでは、と期待していたところが、ついぞ叶わぬ願いとなってしまう残念でなりません。

当日は、凜とした晴天の下、大観客に囲まれ、行政と行列の大先輩であるKさん（目明役）と連れ立つ道中となり、恒例の尾張万歳や、陣屋太鼓も満喫しました。着付けや運営スタッフの皆様も本当に優しく、丁重にお迎えいただき、心より御礼申し上げます。

町並み保存運動から半世紀を経て、私たちは今、人口減少や地球温暖化に直面し、世界中が持続可能な地域づくり（SDGs）を目指しています。その鍵を持つのが「妻籠の初心」ではないでしょうか。「原点を見つめ直せよ。」雲の上からそう言われているような気がしてなりません。



〈寺下を歩く〉



〈神明から大妻籠へ〉



〈城山から恋野へ〉



はじめまして。NTT 東日本 地域循環型ミライ研究所（以下「ミライ研」）の阿部と申します。

この度、ご縁をいただき、第 57 回文化文政風俗絵巻之行列に参加させていただきました。当日は好天にも恵まれ、秋の彩りの中の妻籠宿を満喫いたしました。

現在、NTT 東日本では「地域循環型社会の共創」というパーパスを掲げ、地域の新たな価値創造に取り組んでおります。ミライ研は、そのパーパス実現に向けた研究機関として、日本各地の自然や、その土地で育まれてきた文化や食、そして地域で活躍する人々に着目しながら、地域と地域の間を行き来する人（風の人）を創出するための調査・研究を進めております。その土地で育まれてきた文化を、風の人との交わりによってより輝かせ、持続可能なものとする。日本各地に残っている地域文化を未来に遺していくことが、これからの地域循環型社会のあるべき姿と考えているからです。

錦秋の中山道を江戸の旅人として練り歩きながら、200 年以上前の風の人にも感じたであろう感動に思いを馳せると同時に、妻籠宿の方々が大切に守ってきた「文化」に感銘を受けました。参加者が身にまとう衣装も全て町の方々からの寄付とのこと。着物に身を包んだ子どもたちの楽しそうな表情を見ながら、この地で代々受け継がれてきた「文化」の尊さに心を打たれました。沿道には多くの観光客も集まり、文化文政のさらに前の時代から多くの風の人が行き来した妻籠宿には、私共が目指す地域循環型社会に対する示唆が溢れておりました。

このような貴重な体験の機会をいただいたことを心から感謝いたします。次年度以降も引き続き、私共が妻籠宿の未来に対して貢献できることは何なのかを、調査・研究させていただきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。



〈恋野でひと休み〉



〈陣屋太鼓〉



〈荷車〉



〈NTT から参加の阿部さんと水谷さん〉



〈寺下に行く愛友会〉

しめ縄を作る会開催

奥ジャパン(株)妻籠支店 窪 美 範 子

昨年12月15日に、ふれあい交流センターで行われた「しめ縄を作る会」に参加しました。いつも気になってはいたのですが、都合がつかず今回が初参加となりました。一番大きな会議室で、和智塾神社のしめ縄係の皆さんと一般の方で分かれて作りました。

まず、束ねた藁の端を縛り、二つに分けます。端を足で固定し、手のひらで転がしてなわをなしていきます。皆さんが作っているのを見ると簡単そうに見えるのですが、不器用な私は案の定、全然縄をなえず... 始める前に何度も水で手を湿らせて、今度こそは！と気合を入れるのですが、全く進みません... 仕方がないので最初の部分だけ作ってもらい、その後なんちゃって縄のようなものを頑張って作り、なんとか作り終えることが出来ました。作り終わった後で、2本じゃなくて、もう1本追加して3本で作った方が良いと教わったのですが、もう気力が残っていませんでした(泣)。

最後の仕上げに、飛び出た余分な藁をハサミで切ってきれいにした後、紙垂と藁を垂らして完成です。このしめ縄に取り付ける白い紙のことを「紙垂(しで)」と呼ぶのも今回初めて知りました。「紙垂(しで)」には、雷を象徴し豊作を願う意味がある(諸説あるようですが)と知り、お米と神社は密接に関わっているものなんだなあと再認識できた日となりました。

いつもは、お店でしめ飾りを買ってくるだけだったのですが、今回は細いですが、頑張って作ったしめ縄を飾ることが出来、家も事務所も神様もなんとなく喜んでくれているような気がして、嬉しくなりました。ありがとうございました！



夜回り組 参加者募集中！



「火の用心」カチ・カチカチ...と、毎晩皆さんの耳に届いているでしょうか。今年も年が明けた6日から夜回り組16名が拍子木を打ち鳴らしながら妻籠宿を巡回しています。

この「夜回り組」の発足は、平成11年(1999)1月26日にさかのぼります。「文化財防火デー」の折、防災意識の高揚を図るにはどうしたらいいか話し合った結果、昔あった「夜回り」がよいとなり、その日の夜から有志で始めました。その後、2月11日に参加希望者25名が集まり、改めて発足しました。それから四半世紀、メンバーの交代はありましたが今でも継続しています。ただ、急速に進む高齢化と過疎化で人数は減るばかりです。

妻籠地区の皆さん！夜回り組に入りませんか。1～2月の間、一人3回くらいの当番です。寒い夜の活動にしり込みしてしまうかもしれませんが、一歩前進して妻籠宿を火災から守りましょう！

メンバーを紹介します。(順不同・敬称略)
横山純、石垣八十志、原拓也、野田覚、原信之、磯村琢弥、原修己、平田伊知郎、今井啓文、鈴木剛、鈴木竜行、平川慎治、三浦順明、宮下朋之、牧野光幸、窪美靖

愛する会事務局では常時参加者受付中です

(TEL: 57-3513)

(広報部: 下枝)



〈1.26 文化財防火デーの様子〉



〈今年も1月14日に繭玉づくりが行われました〉

宿 場 暦

- 11月5日：第2回南木曽町総合計画審議会
(副理事長)
- 6日：國學院大學「観光まちづくりフォーラム」
(東京・理事長)、衣装部会
- 7日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会
(理事長・常務)、衣装部着付け練習
- 8日：木曽地域文化遺産活性化委員会
(木曽町・理事長)、撮影許可審議委員会
第57回文化文政風俗絵巻之行列第2
回実行委員会、三役会
- 9日：小林俊彦氏逝去、衣装部着付け練習
- 13日：行列幟旗立て、行列衣装準備(衣装部会)
- 15日：衣装運び出し
- 17日：令和6年度第3回観光地点パラメータ
調査
- 18日：砂防フロンティア打ち合わせ
(交流センター・常務)
- 19日：町政報告会(妻籠町並み交流センター)
- 20日：統制委員会、行列部長会議、行列木戸
組立、広報「妻籠宿」152号発行
- 23日：第57回文化文政風俗絵巻之行列
- 26日：妻籠宿連絡調整会議
(博物館・理事長、常務)
- 28日：リニア中央新幹線工事車両台数につい
てJR 東海住民説明会
- 12月3日：木曽谷狼煙あげ連絡会(木曽町・理事長)
- 4日：行列衣装整理
- 6日：妻籠宿案内人の会視察研修会(苗木城跡)
- 7日：日本ナショナル・トラスト全国大会
(東京・理事長)
- 12日：砂防フロンティア打ち合わせ(常務)
- 13日：行列反省会
- 15日：しめ縄を作る会(分館)
- 17日：行列衣装整理、氷雪の灯まつり実行委
員会(常務)
- 20日：統制委員会
- 23日：広報部会
- 24日：妻籠宿看板検討グループ会議(常務)、
三役会
- 27日：事務所仕事納
- 1月 4日：新春放談会(15名)、第19回狼煙あ
げ(17か所・205名)
- 6日：夜回り開始(～2月22日)
- 9日：文化財防火デー打ち合わせ(常務)
- 14日：繭玉づくり(観協女性部)
- 15日：三役会、文化財防火デー打ち合わせ
- 16日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会
(理事長・常務)、倒木処理(枅形・6名)

- 17日：理事会、信州歴史的まちなみネットワー
ク役員会議(理事長)
- 19日：衣装部会
- 20日：統制委員会
- 22日：木曽川右岸道路(川向～田立)県境部
整備にかかる意見交換会(理事長)
- 24日：信州歴史的まちなみネットワーク全体
会議(松本市・理事長)
- 26日：文化財防火デー(51名参加)
- 27日：妻籠宿案内人の会役員会・学習会
- 29日：広報部会
- 2月 1日：第47回妻籠冬期大学講座—小林俊彦
氏を偲ぶ会(68名参加)

**景観保持のため、宿場内での路上駐車は
やめましょう!**

統制委員会審議事項

- 11月20日
- ・支障木伐採(上町：光徳寺) 1件
 - ・引込線撤去工事(尾又、上在郷：中電) 3件
 - ・携帯電話基地局付属設備の撤去・移設・新設
(NTT ドコモ：橋場) 1件
 - ・玄関前土間の補修(寺下：個人) 1件
- [その他]
- ・危険木伐採(大妻籠：町) 1件
- 12月20日
- ・小屋除却(尾又：個人) 1件
 - ・防護管取付(中町：中電) 1件
 - ・引込線撤去(恋野：中電) 1件
 - ・引込線移設(上町：中電) 1件
 - ・水位観測井戸埋戻し及び現状復旧
(下り谷大崖：鹿島 JV リニア) 1件
 - ・蘭川堆積土除却及び護岸修繕事業
(妻籠橋付近：建設事務所) 1件
- 1月20日
- ・鉄塔舗装の一部補修(下り谷：中電) 1件
 - ・電気引込線張替工事(上町：中電) 1件
 - ・看板除却(寺下延命地藏：愛会) 1件

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事
前に統制委員会への届出が必要となります。申請
用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教
育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

下町 磯村 琢 弥

今回は、妻籠を愛する会の事務所横の交流センターへ向かう階段から出発します。階段を少し上ると、中段に右に分岐する細い道があります。今回はこの枝道を紹介するのですが、先に交流センターへ直進した場合の話を書きます。階段から続く道は、現在の交流センターが建っている場所で左右にYの字に分かれます。左の道は校庭を突っ切り奥の農道へ、右の道は神社の階段を横切って続いています。右の道は階段を横切ったら左に曲がり、いくつもある祠の裏を神社を左側に見下ろして通り、コンクリート舗装された道路に出て軽便道につながります。



《この道を歩きます》

さて話を先ほどの枝道に戻します。現在の道は階段の道から枝分かれした後すぐ右に曲がりお寺へ向かう車道に出ますが、法務局の地図ではそのまま真っすぐ石垣を下りて車道を渡り、左に曲がって小学校方面へと行きます。道は以前小学校の滑り台があった辺りを通り、鳥居の前に出ます。



《ブール跡前を通ります》

ここからの道の状態はかなりぬかるんでいます。横が水路になっているのでドロドロです。しばらく歩くとお墓があり、ここを左へ曲がります。曲がった後は沢の左側に沿って軽便道方面を目指しますが、すぐに道は崩れていて地層まで見えています。さらに少し歩くと謎の横穴があります。小学生の時

に探検した記憶があるのですが、ぴょんぴょん飛び変な虫がたくさんいて逃げ出してしまいました。誰かが水を引こうとして掘ったのでしょうか？



《お墓で曲がります》



《小学生の時、探検した穴かも…》

ここからはなんとなく道がありますが、軽便道にかかる橋の下をくぐるともうわからない状態です。地図では大井水跡にぶつかるまでが描かれているので、最後まで行ってみました。ほとんどの道が大井水跡あたりで地図から消えてしまうのですが、本当はまだ続きがあってもっと上へ行けたのかもしれませんが、昔、妻籠城の戦いで逃げる敵を追い越し、待ち伏せした道が上にあったそうなので、そこまでは道があったのではないかと思います、確かめるべきがありません。



《沢の左が道です》

次回は大妻籠へ行ってきます。